

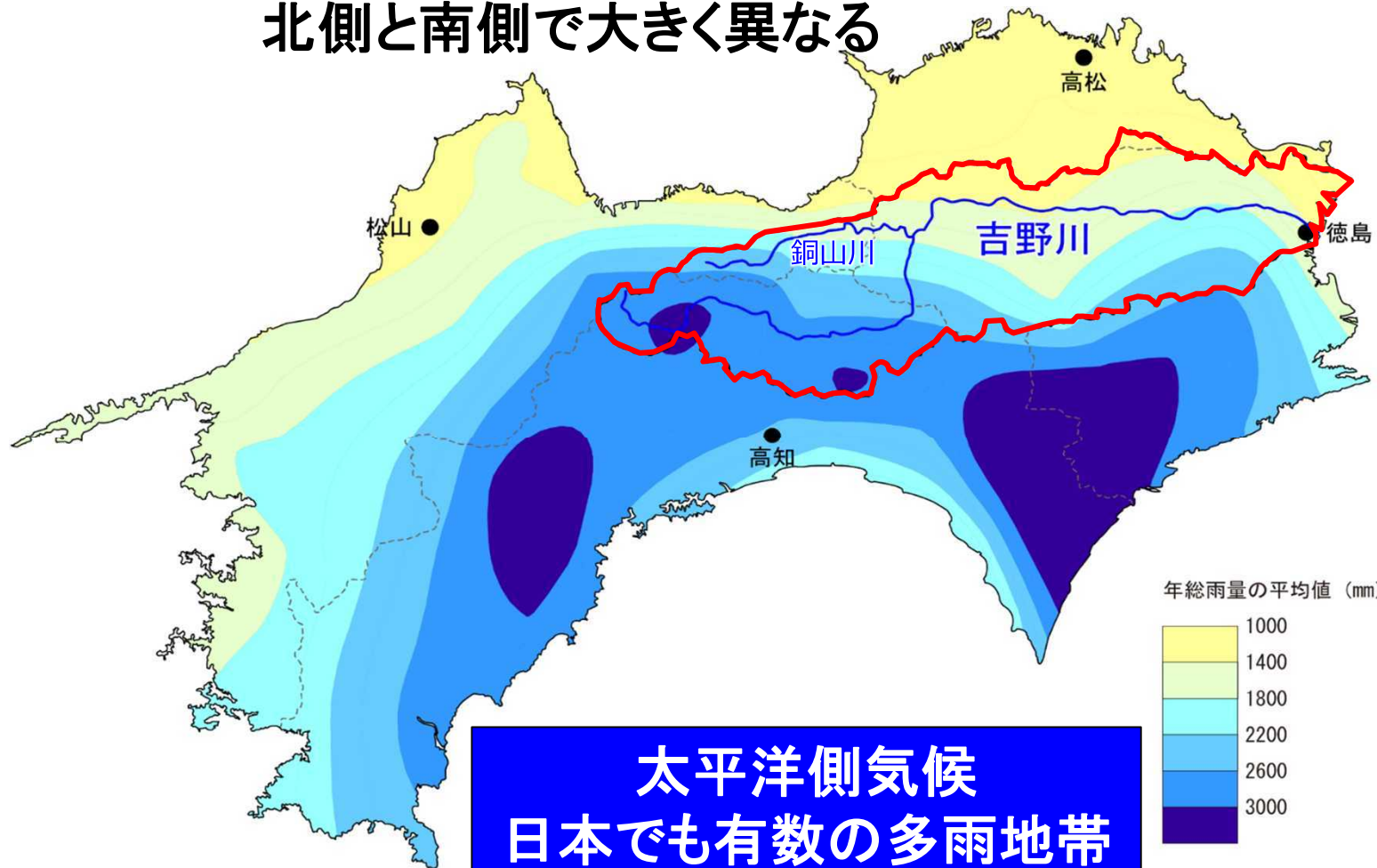
吉野川総合開発計画による 治水・利水

令和8年3月17日

国土交通省 四国地方整備局
吉野川ダム統合管理事務所

四国の降雨特性は、
地形を二分する四国山地によって
北側と南側で大きく異なる

瀬戸内海式気候
日本でも有数の少雨地帯



太平洋側気候
日本でも有数の多雨地帯



愛媛県四国中央市
東予地方の雨乞い踊り

安定的に使える水が欲しい北四国

愛媛県(東予)

藩政の頃より農業用水として
銅山川からの分水を渴望

農業用水、生活用水の不足
吉野川の水への羨望

香川県



四国共通

工業の発展・電力の安定供給
経済基盤の強化

徳島県

日本三大暴れ川
洪水被害の低減、
農業用水等の安定供給を切望

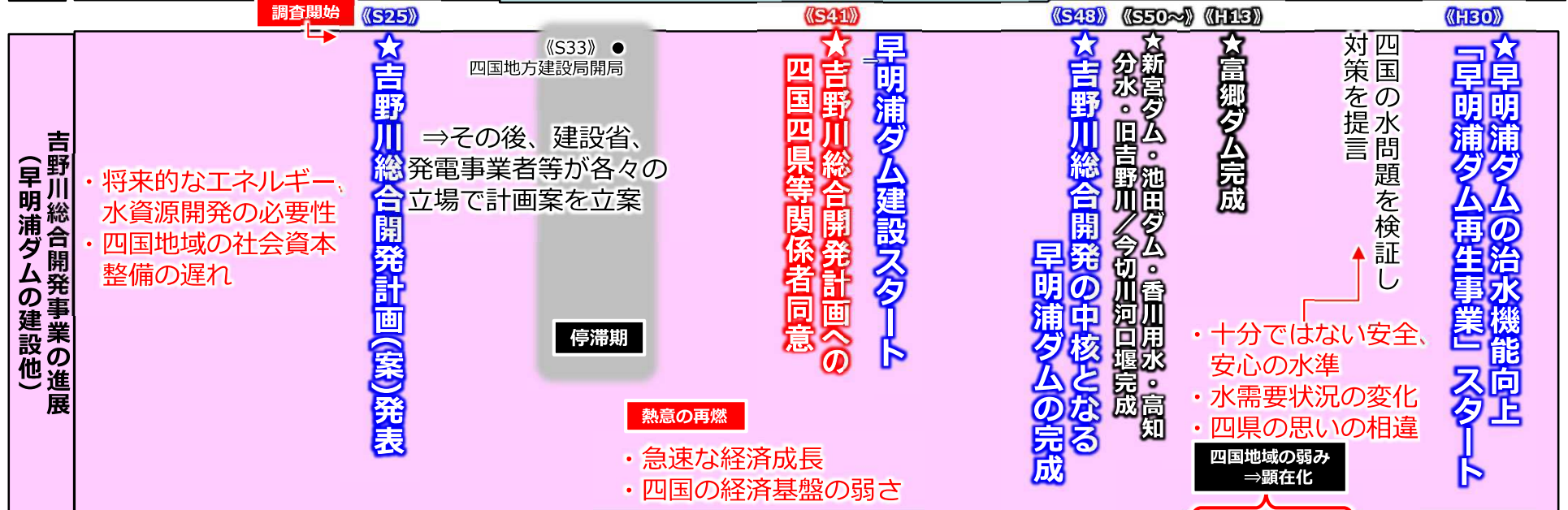
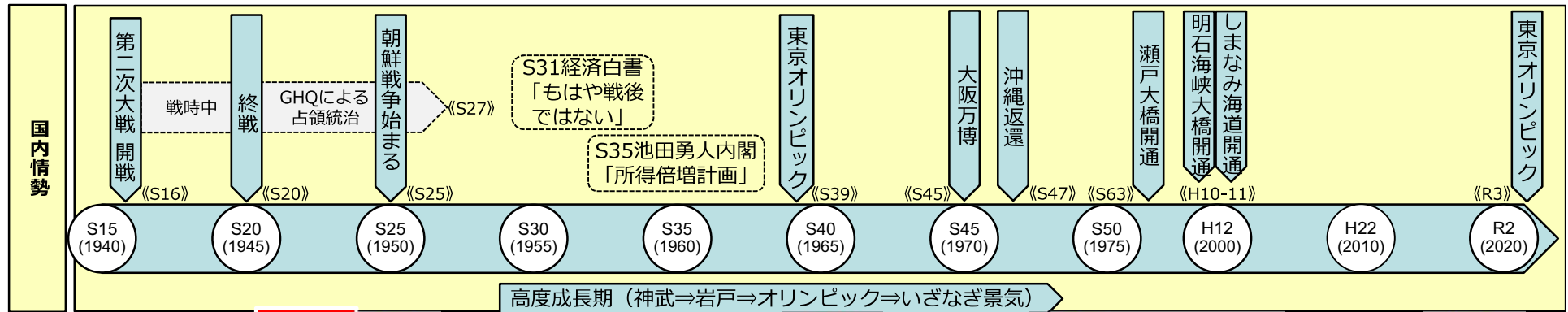


徳島県徳島市

吉野川の洪水に苦しむ南四国

洪水時に水没しないよう
高い台座の上に据えられた
お地藏さん「高地蔵」 3

吉野川総合開発事業の経緯



| 主な災害 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● S9.9(室戸台風) ● S20.9(枕崎台風) ● S29.9(ジューン台風) ● S25.9(ジェーン台風) ● S34.9(伊勢湾台風) ● S21.12南海地震 ● S36.9(第2室戸台風) ● S45.8台風10号 ● S49.9台風18号 ● S50.8台風5-6号 ● S51.9台風17号 ● S49高松砂漠 ● H16.10台風23号(戦後最大規模) ● H17.9台風14号(戦後最大規模) ● H6濁水 ● H17濁水 ● H20濁水 ● H7阪神・淡路大震災 ● H23東日本大震災 |

吉野川総合開発事業で整備した施設



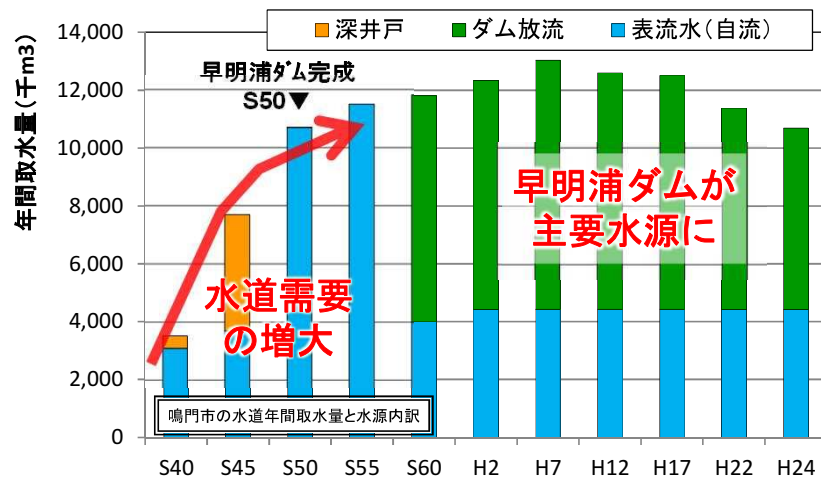
吉野川総合開発により下流域が受けた恩恵【徳島県①】

- ◇ 【上水】早明浦ダムで開発した水道用水により、人口増加や生活様式の変化に伴う**水道需要の増大に対応**。
- ◇ 【工水】工業用水の供給区域である徳島市、鳴門市、松茂町、北島町の**製造品出荷額が増加**。



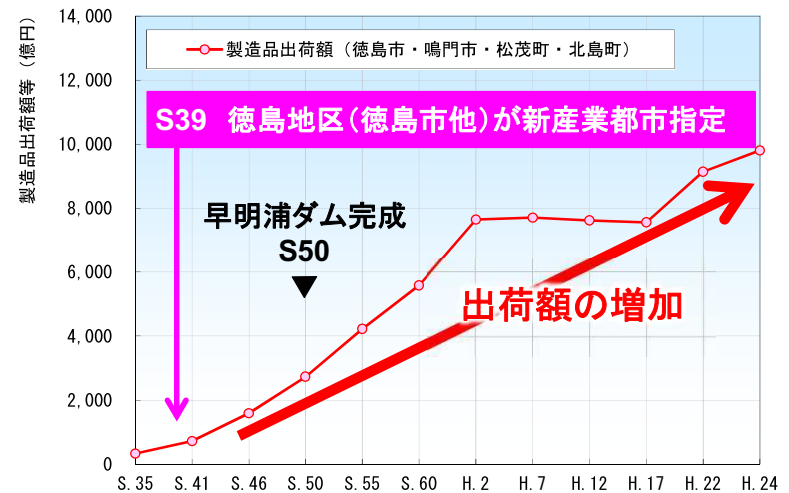
基図の出典: 独立行政法人水資源機構吉野川本部Website

早明浦ダムからの水道用水供給



【水道データの出典】水道統計(公益社団法人 日本水道協会) 鳴門市

製造品出荷額の推移



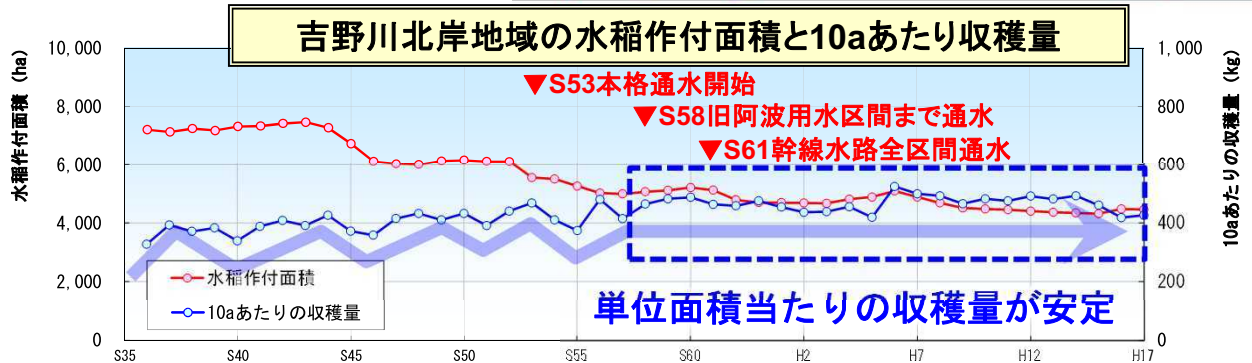
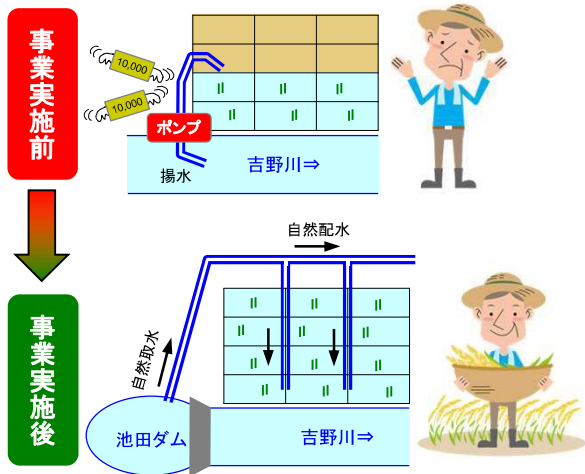
【出典】工業統計表[市区町村編]

吉野川総合開発により下流域が受けた恩恵【徳島県②】 国土交通省

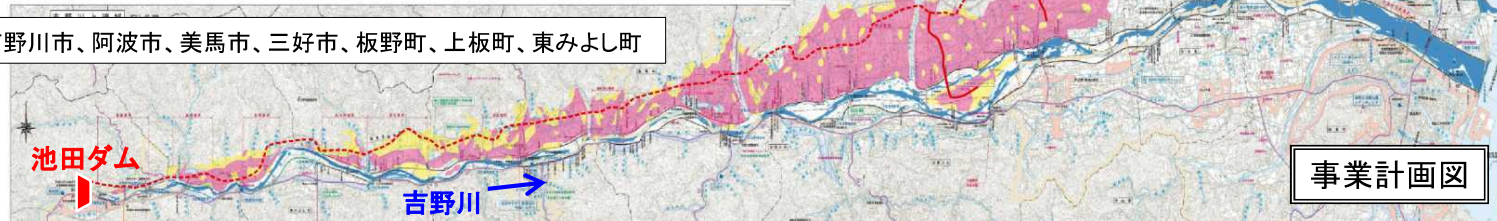
- ◇ 【農水】池田ダムからの農業用水により、ポンプ揚水から自然取排水に転換し、**用水の安定供給が可能**に。
- ◇ 北岸用水の供給開始以降、耕地面積は減少しているものの、安定的な水供給により単位面積当たりの**収穫量が安定**。



北岸用水の供給



【受益市町・4市3町】吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、板野町、上板町、東みよし町



吉野川総合開発により下流域が受けた恩恵【他3県】

- ◇【香川】香川用水により、少雨地域である香川県において、ほぼ全域で水道用水の安定供給が可能になり、**恒常的な水不足が緩和**。
- ◇【愛媛】愛媛分水により、柳瀬ダム管理開始以降から**製造品出荷額が増加**。中でも紙・パルプ・紙加工品の出荷額は**平成16年から20年連続で日本一**。
- ◇【高知】高知分水により、人口増加や産業及び経済活動の発展等に伴う**水需要の増大に対応**。高知市内の**水道用水の約3割を占める重要な水源**。



過去の大湯水



昭和48年 給水車に行列 (高松市)

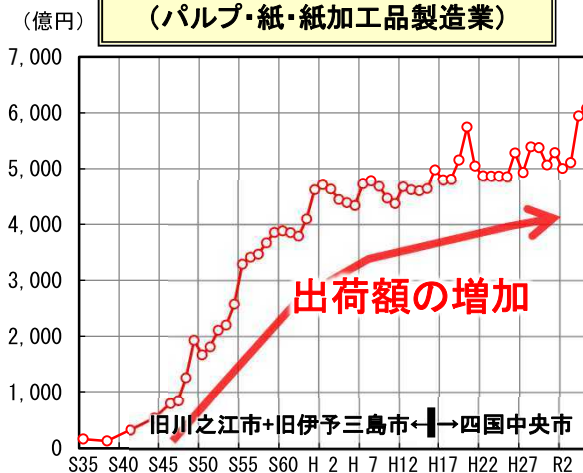
水不足が緩和

香川用水の通水



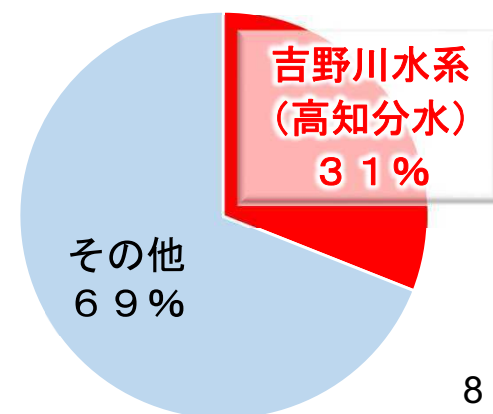
香川用水

四国中央市の製造品出荷額 (パルプ・紙・紙加工品製造業)



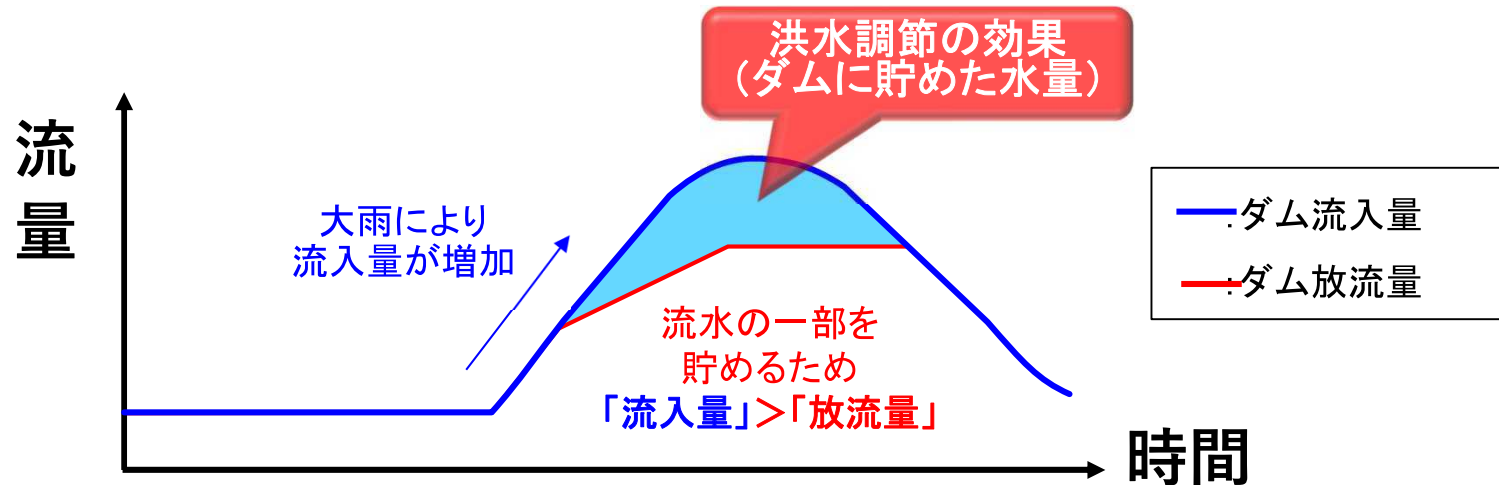
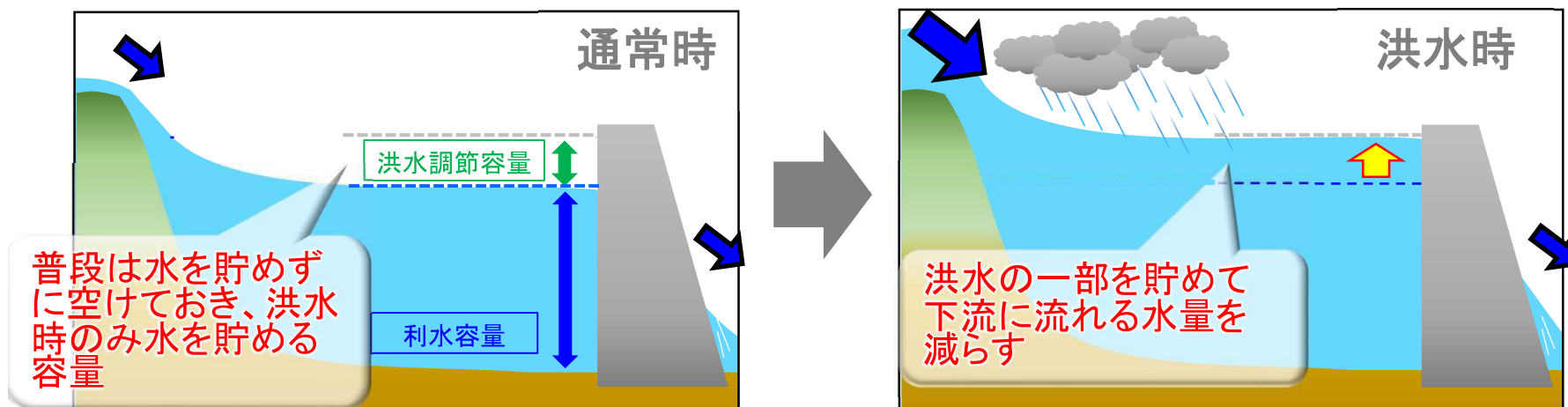
【出典】工業統計表[市区町村編]

高知市水道水源の施設能力内訳

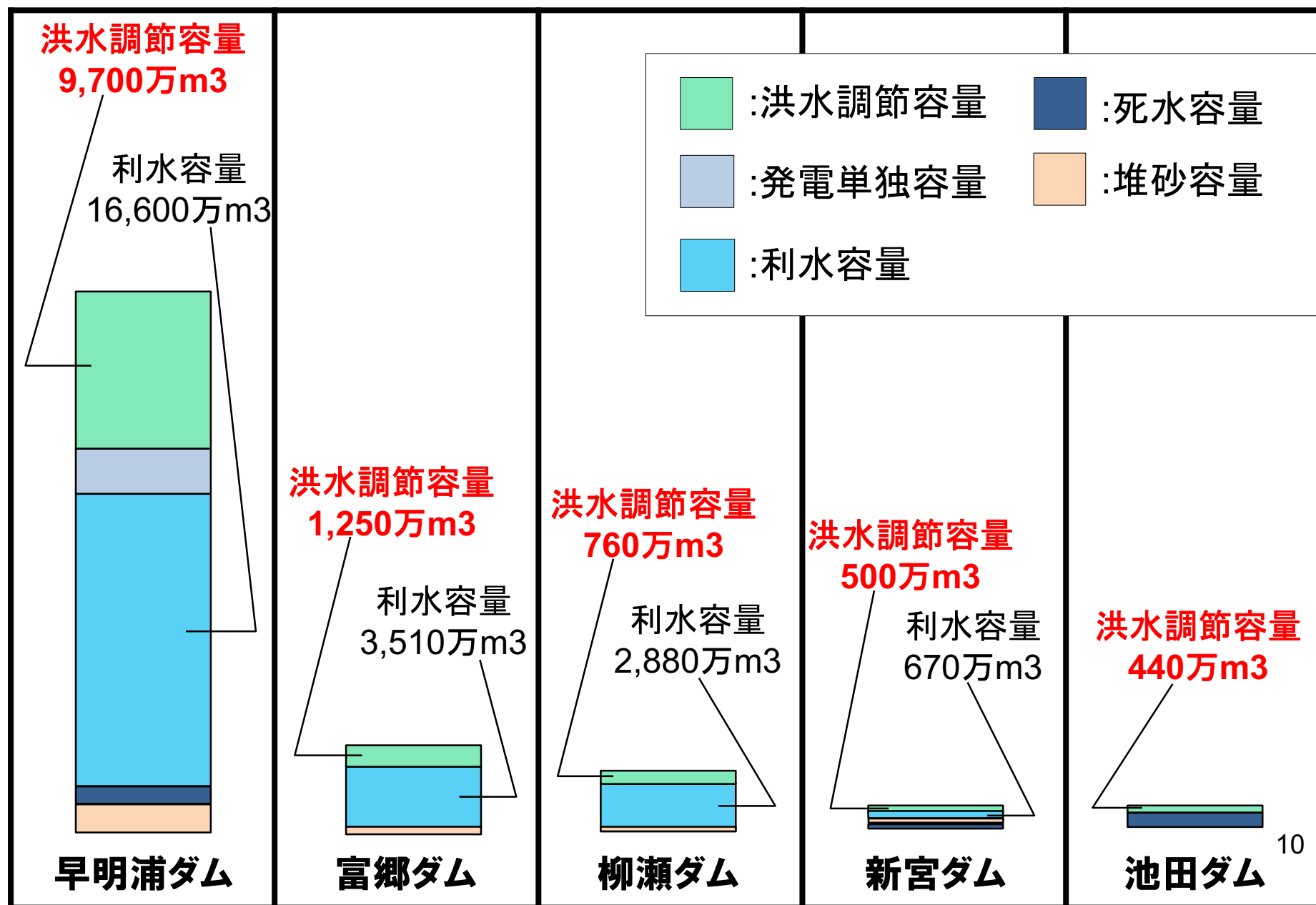


ダムによる治水効果

ダムにおける洪水調節容量を使って、洪水時にダムへの流入量の一部を貯留し、下流へ流す水量を減少させる

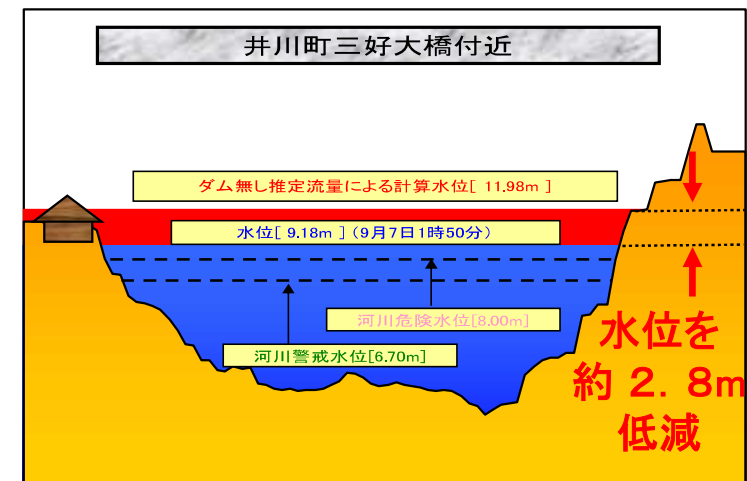
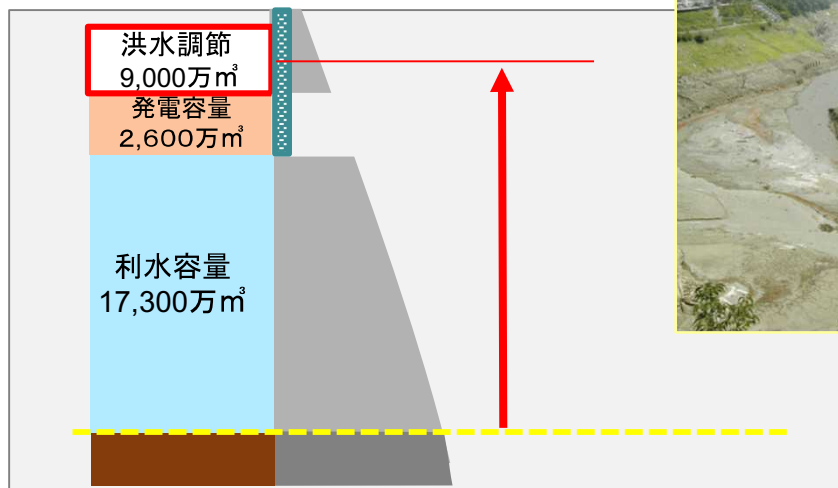


各ダムの洪水調節容量



早明浦ダムによる治水効果(平成17年台風14号の事例)

平成17年台風14号(計画規模を超える水が流入) 早明浦ダム洪水調節効果



早明浦ダムの再生事業 ~ 洪水調節機能の強化 ~

平成17年台風14号来襲時に渇水でなかった場合、下流域で浸水被害が発生

容量の振替

◇ 水需要の変化に伴い、**利水容量を縮減し、洪水調節容量を増量。**

予備放流の導入

◇ 限られた容量を有効に活用するため、**予備放流方式を導入。**

放流設備の増設

◇ 洪水調節容量の増強(ダム貯水位の低下)に伴う放流能力の不足を解消するため、**放流設備を増設。**

ダム再生事業前



ダム再生事業後



※容量振替は令和4年7月1日から実施

増量

洪水調節容量
9,700万 m^3
(R4. 7. 1~)

予備放流

減量

放流設備
増設

早明浦ダムの再生事業による効果

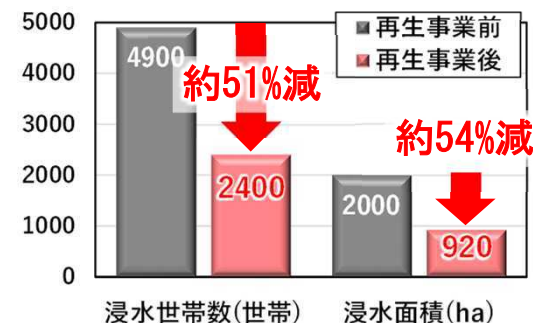
平成17年 台風第14号洪水』を対象に効果量を算定(渇水でなかった場合)

◇ 早明浦ダムの再生事業により、浸水世帯数および浸水面積は半減し、被害軽減効果は約1,878億円。

- ・浸水世帯数 約4,900世帯 → 約2,400世帯(約51%減)
- ・浸水面積 約2,000ha → 約920ha(約54%減)

※平成14年度測量データ及び令和11年度末までに整備が予定されている堤防を考慮して算定

想定される浸水被害

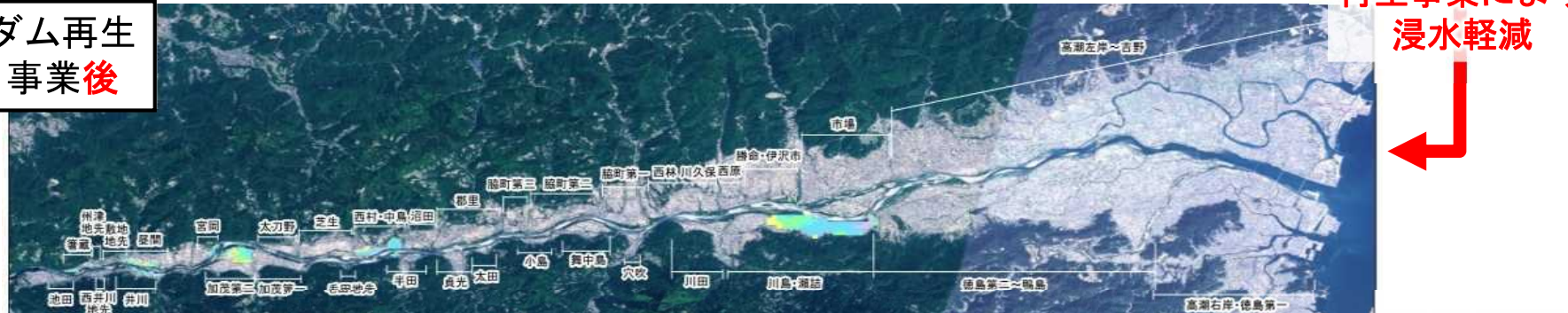


平成17年9月洪水が発生した場合に想定される浸水区域

ダム再生事業前



ダム再生事業後



事前放流の実施、河川改修の推進により更なる被害軽減を目指す

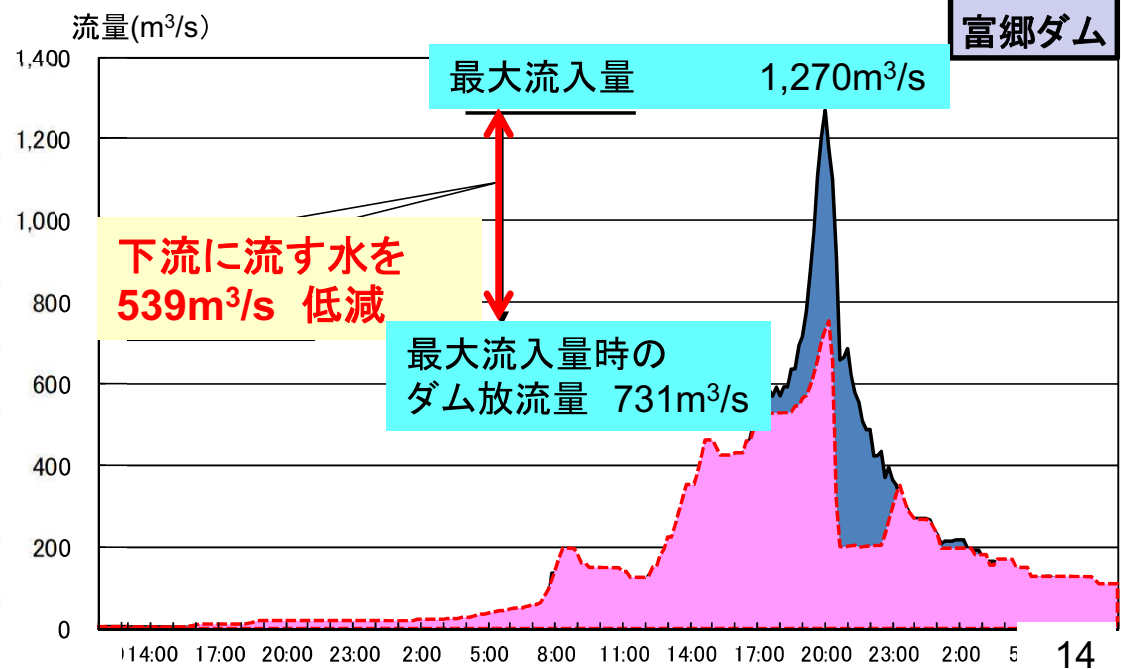
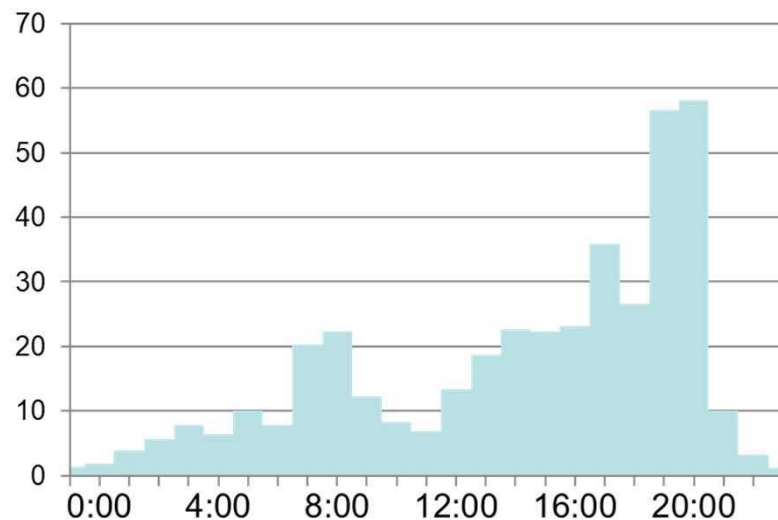
銅山川ダム群による治水効果(平成30年台風24号の事例)

○平成30年台風24号は、9月28日23時～10月1日9時までの流域平均総雨量は、早明浦ダム上流域で約361mm、銅山川流域で424mmを記録。**富郷ダムでは管理開始(H13年)移行、既往最大の流入量(1,270m³/s)を記録**

○富郷ダムでは、降雨、流入量、ダムの残容量を踏まえ、残された容量を最大限有効に活用し、通常の防災操作による**貯留量の約1.9倍の約465万m³(東京ドーム約4杯分)を貯留**するなど、治水施設能力を最大限有効に活用し、**下流へ流す量を539m³/s低減**。

○富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダムで洪水貯留を行い、下流の被害軽減に努めた結果、新宮ダム下流の吉野瀬(四国中央市新宮町)地点で**約2.08m水位を低下**させたと推定。

銅山川流域の雨量(mm)



吉野川総合開発50周年記念式典

吉野川総合開発の早明浦ダム、池田ダム、新宮ダムが、令和7年度に管理開始50年を迎えるにあたり、四国最大のプロジェクトであり、四国四県の人々が水源地域(三好市、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町)や早明浦ダム等から恩恵を受けていることを再認識していただく式典を開催。

日時: 令和7年11月16日(日)10:30~11:45

場所: 本山町プラチナセンター(高知県長岡郡本山町)

主催: 吉野川総合開発50周年記念式典実行委員会

(国土交通省四国地方整備局、水資源機構関西・吉野川支社吉野川本部、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)

